2017 年 10 月 24 日(火)

まちの保育園　ヒアリングレポート

見学日時：2017 年 10 月 23 日(月)

見学参加者：古賀誉章，青木隆太郎，高瀬敦，金子亜里砂

お世話になった方：ナチュラルスマイルジャパン　稲葉様

1)　施設概要

名称：まちの保育園　小竹向原

HP：https://machihoiku.jp/

所在地：〒176-0004　東京都練馬区小竹町 2－40－5

施設種別：認可保育所

運営主：ナチュラルスマイルジャパン株式会社

建設年次：2011 年

延床面積：827.4 ㎡

保育定員：0 歳児：6 名，1 歳児：12 名，2 歳児：14 名，3～5 歳：16 名　計 80 名

職員体制：施設長 1 名，副園長 1 名，保育スタッフ 20 名，調理師・栄養士 4 名，看護師 1 名，
コミュニティコーディネーター(CC)1 名

2)　運営について

・施設の理念や考え方

まず，まちの保育園という名前について，「まち」と「保育園」の役割を考えてこの名前を使っている。「まち」は子供に対して資源を生かす，成長を促す場所であると考えている。また，「保育園」は子育てをする若い人たちが集まる場所である。「まち」にとっても「保育園」は生かすべき資源となるので地域の拠点になると考えている。保育の方針としてはレッジョ・エミリアの保育方針に倣って

いる部分があり，子供が主体的に学ぶことを重要視している。0 歳児の時の活動の積み重ねによりそのあとの活動が決まると考えているので，活動の素材と出会う場を大切にしている。

・この土地を選んだ理由と開設に至った経緯

2011 年の開設当初は 40 人の認証保育所から始まったが，余裕を持った保育や職員体制にしたいと考えていたので，2015 年の法改正の際に増築して認可保育所に変更し，80 名まで受け入れられるようにした。併設しているパン屋は，開設当初に中間領域的な場所が欲しいと考えていたのでパーラーエコダというパン屋を行っていた当時子育て中のご主人に直接相談し，理念に賛同してもらったこともあり新しいお店を出すという形で保育所内にお店を出してもらっている。お互いに続けていけるように家賃などは取らず，運営している。

3) 建物について

・施設全体(周辺環境との関わり)の設計で配慮したこと

保育園に入るときに通る受付を一つにまとめることで職員が保護者の方と毎日顔を合わせられるようにしたかった。また，受付を介して保育室に行くことでギャラリーや園庭を開放する際に動線を分離して安全を確保しながら園の中まで入ってきてもらえるように設計してもらった。

・施設内の設計で配慮したこと

基本的に自然の素材を使うような設計をしている。大人も落ち着いて過ごせるような色を使い，動物などの壁面装飾や遊びを規定してしまうような遊具はあまり置かないようにしている。壁や棚の上には子供の作品やドキュメンテーションを飾ることで子供が集中して遊べるような空間づくりを行っている。

・共用空間、交流場の使われ方

パン屋とまちの間，ギャラリーを地域開放して子供と地域の方との日々の関わりの場にしている。パン屋は地域の人が 9 割ほど使っており，お昼は子供連れ，夕方や夜はカップルや学生，社会人の方などが訪れている。このパン屋から直接保育室を覗くことはできないが，気配を感じることができる。ギャラリーでは子供の作品や写真を飾り，まちの間はママ会，パパ会，料理会などのちょっとした貸し切りの活動を行うスペースとして使われている。

・平面図、配置図などの建築的な資料

4) 連携について

・地域にある施設，地域住民との関わりへの考え方や方針

ギャラリーや園庭を大学のゼミ活動や地域の方の活動に利用してもらう。この地域の周辺には民家も多いため，子供たちのその時々の興味に沿った活動を地域の方にコミュニティコーディネーターが相談して，活動ができそうな庭を利用させてもらうなどお互いに地域の資源として利用している。また，美大生の授業の一環として子どもの遊具作りを行ってもらい，どのように使われているかフィードバックするというような連携も行っている。一時的なイベントにしても子供の興味が継続しないた

め，その時々に合わせてコミュニティコーディネーターが連携と企画を行っている。

・運営していく中で出てきた課題や住民からの評価、それらに対する取り組みなど

直接，住民の方から評価を貰うことはなかなか難しいため，定期的にまちの保育バーというものを開催して地域の方と保育士の交流や関係づくりを CC を中心に行っている。その中で，保育園での子供たちの様子を紹介している。この他にも住民の方と一緒にできそうな活動をお互いに話し合う場所として活用している。

・保護者同士，保護者と保育者の関わりはどのようにサポートしているか

CC を中心に保護者同士の活動も繋げていくことが多い。保育士はどうしても保育が中心になってしまいなかなか地域の方と関わったり保護者同士の間を取り持ったりするのは難しいため，この部分を CC が取り持つことで保護者同士のつながりも作っていく。定期的に開催される保護者会では，保育園側からお知らせするだけでなく，保護者同士，保護者と保育士の対話によって進めていくことを大切にし，子供の様子をお互いに知ることができるようにしている。

5) 今後の方針について

・今後、施設や事業を継続していくうえで、難しいと考えている点

国では 2020 年を目処にアクティブラーニングを中心にしようとしていて, 今後の教育はより主体的に学んでいくことが重要になってくると考えている。現在までがコンテンツ型で知識を深めていくものに対して，主体的，対話的で深い学びがより必要になってくる。また，現在の子供は将来的に存在しないような新しい職に就くのではないかと考えられている。そのため，より深い経験や出会いと実体験が必要になってくるため難しいと考えている。

・それらに対して考えている、実際に行っている取り組みや工夫について

主体性を育てる取り組みとして行っているのは，朝の会でその日の活動を自分達で決めるようにしている。年齢ごとに集まり，7 から 8 人で出来る活動を決めていく。その中で保育士は様子を見ながら素材を提供することでより活動が広がっていくような手助けをしている。

このほかにも，継続的なボランティアの受け入れを行い地域の方と出会う機会を設けている。内容は様々だが，その人の要望に合わせて保育を一緒に行ってもらったり，園庭整備を引き受けてもらったりとその人のボランティアのスタイルに合わせて提案している。

夏休みの 2 週間ほど，卒園児が帰ってくる週刊などもあり，子供たちの成長を保育士が感じられるともに，卒園児が担い手となることで新しい経験をすることができるような活動を行っている。

これらの活動を中心になって支える CC は園に一人とすることで，イベント，ノルマ的にならないように仕組んでいる。この他にも，CC にはドキュメンテーションと言って写真と文章で子供の様子や成長を紹介してもらうことで保育士同士の情報共有にも役立てている。